

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
塗料関連事業	1,597,437	△5.6
自動車製品関連事業	3,339,799	△11.8
合計	4,937,236	△9.9

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 受注実績

当グループは受注による生産は僅かであり、主として見込生産によっておりますので、受注ならびに受注残高について特に記載すべき事項はありません。

#### (3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
塗料関連事業	2,991,756	△5.2
自動車製品関連事業	4,675,145	△15.3
合計	7,666,901	△11.6

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
㈱中外	1,578,728	18.2	1,401,284	18.3
本田技研工業㈱	1,235,894	14.2	808,419	10.5

- 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、財政状態、経営状態及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

#### 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において、当社グループ（当社及び連結会社）が判断したものであります。

##### (1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、政府が進める景気対策を下支えにした個人消費や生産活動の一部に回復の兆しが見られたものの、設備投資の減少や雇用環境の悪化等、依然として厳しい状況で推移しました。

このような厳しい事業環境のもとで、当社グループは、顧客ニーズに合致した環境対応型製品や価格競争力のある新製品の開発に取り組むとともに、積極的な受注活動に努めてまいりました。また、同時に原価低減と固定費削減など収益改善に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は、前年同期比11.6%減の76億6千6百万円となりました。損益につきましては、徹底したコスト削減により営業利益は3千2百万円（前年同期は3億7千2百万円の営業損失）、経常利益は3億1千1百万円（前年同期は2千3百万円の経常損失）、四半期純利益は、前年同期比151.5%増の2億6千万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

##### ① 塗料関連事業

当部門につきましては、製造業は回復の兆しがあるものの、業界では住宅着工戸数の減少に見られるように依然低空飛行のままで、需要減少の影響を受け一層の価格競争の激化等により、売上高は前年同期に比べ減少となりました。

品種別売上高では、合成樹脂塗料では、内外装用塗料の市場がシュリンクしている中で、屋根用塗料を中心に前年同期比1.9%減少しました。床材・舗装材は年末工事の需要は若干あったものの、依然公共施設物件や民間設備投資の大幅減少の影響もあり、前年同期比18.7%と大きく減少しました。防水材は、当社の主力であるウレタン防水が設備投資抑制の影響もあまり受けず、安定した販売動向にあり、前年同期比では5.3%と増加しました。

工事関連につきましては、マンション等の改修工事の一服感もあり、前年同期比7.2%の減少となりました。

この結果、当部門の売上高は29億9千1百万円（前年同期比5.2%減）、営業損失は1千4百万円（前年同期比86.0%減）となりました。

##### ② 自動車製品関連事業

当部門につきましては、エコカー減税や補助金などによる効果もあって、国内販売は前年実績を上回って回復傾向にありますが、自動車輸出の不振が続いており、国内自動車生産台数はまだ本格的な回復基調には至っておりません。

品種別売上高につきましては、吸・遮音材は、超軽量防音システム部品「リエタ・ウルトラライト」の市場シェアは堅調であります。制振材は、軽量化や塗布型への切り替えによる減少で前年同期比21.7%減少しました。防錆塗料は、水系塗布型制振材や耐チッピング塗料、車体シーリング材の採用は拡大しておりますが、前年同期比16.4%の減少となりました。

この結果、当部門の売上高は46億7千5百万円（前年同期比15.3%減）、営業利益は4千6百万円（前年同期は2億7千1百万円の営業損失）となりました。

##### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ15億9百万円増加し、358億1千万円となりました。主な増減要因は、売上債権の増加や株式相場の上昇による投資有価証券の増加、有形固定資産の減少によるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ11億1千4百万円増加し、192億4千3百万円となりました。主な増減要因は、支払手形及び買掛金の増加によるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3億9千5百万円増加し、165億6千7百万円となりました。主な増減要因は、自己株式の取得による減少、その他有価証券評価差額金などの評価・換算差額等の増加によるものです。自己資本比率は45.0%と0.9%減少しました。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、19億1千3百万円と前連結会計年度末に比べ2億5千3百万円の増加となりました。

営業活動による資金は、7億3千4百万円の収入（前年同期比3億4千9百万円増加）となりました。この主な要因は、減価償却費5億7千9百万円、売上債権の増加による減少11億6千8百万円、仕入債務の増加による収入10億9千5百万円などによるものです。

投資活動による資金は、2億3百万円の支出（前年同期比5億2百万円減少）となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得による支出2億1百万円によるものです。

財務活動による資金は、7千9百万円の収入（前年同期比3億1千7百万円減少）となりました。この主な要因は、短期借入金の増加による収入5億2千万円、長期借入金の返済による支出3億5千2百万円などによるものです。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

### (5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間の研究開発費の総額は2億6千3百万円であります。